

書簡本文

（一九四四年五月～一九四五年五月）

謙一から幸子あて（一九四四年五月二〇日以前の記）

電車、汽車、ともに楽でした。学さんとは新宿で別れました。東京は雨でしたが、大してぬれるほどではありませんでした。二人とも階下で勉強しつつ、待つてゐました。午後九時少し前でしたが、ちやんと御飯といわし（配給）の煮たのと、みそ汁とを用意してくれてゐました。みそ汁の中にはなつぽとでかい昆布とがは入つてゐました。辻岡さんへの野菜も、僕の出したチッキも此の日の夕方ついたのださうで、丁度その頃野菜の配給もあり、魚も辻岡さんが配給をとつて来てくれてゐたさうですが、その夕方まで家中の食糧は米以外殆どなくなり、みそ汁の実にダシ昆布をぶつ切りにして入れた所だつたのださうです。

留守中は夕食は寛ちやん、朝食とベン当は利ちやん、が夫々うけ持つて中々うまくやつたらしく、昨夜も、丁度辻岡さんを通じてのたけのこを、昔の雨ざらしのにしんと一緒に醤油で煮たベン当菜をつくつてゐました。寛ちやんのいわしの煮付けはしほからいがうまく出来てゐました。二人ともガスやその他を中々苦心してつかつて、例へば、何かの煮物の汁は必ず二、三回外のものにもつかふとか、してゐました。棚に妙な煮汁がとつてあつたので、何だらうと思つてきいてみると、何だかにがい乾物を煮たと云ひ、それが実は百合根の乾したやつだつたのです。寛ちやんは、キンピラごぼうを作る時トウガランのつもりでいなり丸を入れて、物凄く苦いものが出来上り、それでも勿体ないからと二人で食べて了つたと云ふ話もきました。或ひはまた雑炊にいろんな粉をつかつて了つて、最後に、代用ココアの薬くさい粉を何だかわからないが食へるだらうとほうりこんで、食べたさうです。相当な風味だと云つてゐます。だが大分ふえたからよかつたといつて加へてゐました。とにかく野菜が来たので二人とも大よろこびでした。

猫は十五日に一度帰つて来たきりで、ずつと外泊して飯も食いに来ないさうです。多分シーズンのせいだらうと云ひますが、何だかあはれでいけません。隣の猫も見えないさうです。

今朝も小雨で、ひえます。利ちやんの買ったカバンは早くも持つ所がこわれて、今朝もキリで穴をあけつつ苦心して縫つてゐました。便所はまだ掃除屋が来ないので、あふれてゐます。チリ紙は専らひろちやんの書きつぶしの原稿を使つてゐます。六畳の床板の抜けた所は利ちやんがうまくなほしてゐました。家中わりあひ片づいてゐました。
ダバコはこちらも全然買へないさうです。

ひろちゃんは今週火曜日ぐらゐ(8)に行きます。米も持たせませう。証明書の口実(9)に二人頭をひねつてゐます。今夜はひろちゃん(10)が、タケノコ、ふき、めしをつくりませう。明日の夕方は三人で銀座で食べるつもりです。一週に一回、君に手紙を書きませう。では皆様よろしく。

幸子から謙一あて（一九四四年五月二〇日の記、二二日の消印）

御手紙有難う。皆、お勝手仕事随分うまくやつてゐたんですね。ストックが何もなかったから困つた事でせう。それでもよく、うまく考へて工夫してゐたんですね。感心致しました。板前でも裁縫でも男の方が本当はうまいんだ相です。ら、利ちゃんたちにも其のかたぎがあつたのかも知れませぬ。

キンピラ(11)ごぼう(12)のいなり丸は家中で大笑でした。さぞ、それを食べて心臓が強くなつた事でせう。

手紙を読んで、此の分ならあなたの方が、私などより、ずつとうまいから心配もへちまもないと安心致しました。野菜はいまのところ、先日持つて帰つた玉葱と、つけ菜ばかりで、筍ももう季節をはづれた様です。もうすこし立つとサヤエンドウ(13)が始めるとのこと、紀州より随分おくれます。玉葱は何日位あり相ですか。もうそろ／＼ない様なら、またこもで巻いて送りませうか。大鹿へ行つたら筍をすこし手にいれて来ようと思ひます。あの辺は、又、こゝより大分季節ものがおくれるのでせうから、これから盛りかも知れませぬ。

あれつきり（くろ田以来）何処へも出ませんでした。今朝はお母さんのコンモウ(14)もだしがたく、藤山稲荷と云ふつまぬところへ散歩して来ました。歩いてゐるうちに暫く忘れてゐた、脊骨の痛みが出て来て、家へ帰つてからのびてしまひました。家は植木屋が一週間はいり(15)りましたし、キョウジ屋も来たので、大分きれいになりました。

今日（二十日）から時間割通りに実行し始めました。朝は五時起床、 $5\frac{1}{2}$ — $1\frac{1}{2}$ は英語、五ヶ月も中絶してゐたので、又もや始めつからやり直します。

七時—八時は二階の掃除（これは私のうけもち）

八—一〇時 経済学入門

一〇—一二時 洗濯、手伝ひ、その他

一時—三時 英国史

三時―四時 お茶その他手つだひ

四時―五時 小説、その他

五―六時 夕方掃除

七時―九時 アメリカ史

九―一〇時 共同勉強（桃ちやんと羽仁ミケランゼロ）

第一回目の時間割ですが、これで、暫くやつて見て具合がわるい様なら又改めて、組直しをするつもりです。

そちらもまだ砂糖の配給はありませんか。お母さん、毎日甘いものく〜と云つてゐます。

さつき、此のつづきを書かうと二階へ上つて来たらサイレンが鳴り始め、つづいて警鐘も鳴り始めましたので光のもれぬ用意をし終ったところです。

東京空襲かと心配してゐます。

暗幕やカバーそちらでチャンとしてあるでせうね。どうかあまりそちらが恐ろしい事にならぬ様と念じてペンを置きます。

寛ちやんが来る日をまつてゐます。

お母さんは天竜峡へ案内せよと云つてますが、若い人には面白くないところですが。

では、お二人にどうぞよろしく。

三人で思つきり勉強出来ることを祈ります。

五月廿日七時

幸子

謙一様

つい手の時、クリーニング屋に、三年程前に頼んだ村山大島の洗張りはどうなつたか聞いて置いて下さい。

幸子から謙一あてはがき（一九四四年五月二三日の消印）

今朝、寛ちやん無事到着。早苗へのお土産やコールドクリームなど、どうも有難う。葎も。今日は遠方から来客のある日と見えて、寛ちやんの外にも満洲から前川さんが来ました。早苗ちやんは寛ちやんが珍らしいと見えてチョイく〜そばへ来てゐます。昨日は風邪と下痢で弱りましたが、今日はもうよくなりましたから、夕方、飯田の町へ寛ちやんと行

つてみ様と思ひます。

五、六日と云はず長く遊んで行つて貰ふつもりです。庭は今、ばらの花盛り、マーガレットも咲いてゐます。警報がとけて安心致しました。ではとりいそぎ

謙一から幸子あて（一九四四年五月二三日の記）

中々いい勉強プランです。しつかりおやりなさい。ギリシヤ史などの本箱は出ましたか。「学生と歴史」の中の羽仁氏の論文、ラングロア、セーネヨボスの「歴史学入門」等もその中出してごらんになるといいと思ひます。みんなそちらへ行つてゐる筈です。また今度送つた分の中のどこかに「史学雑誌」があつて、その中に羽仁氏の「東洋に於ける資本主義の形成」が四回に亘つてありますから御一読あるやう。

ひろちゃん七つ道具を背負つた弁慶——但しこの近代的弁慶は「知識の道具」の重みで大分くたびれてあごを出しながら——と云つたか^くかうで辿りつたことせう。彼も君と同様、家の中畳の上では軽々とトランクをさげてみせて「大して重くはない。もつとつめこんでも行けますよ」と人がとめるのにとんくくつめこみ、あれでも僕がむりやりすめて本を三貫メ近く減らした（人類学叢書十四冊）もの。それでいざ外へ出て現実の道路を踏まえてみて、きつと重さに閉口したに違ひありません。ちよつと家弁慶外何とかの観ありますが、彼の意図はあくまで親切で、我々も大いに感謝せねばなりません。とにかくせいぜい、おいしいものはなくてもせめて「物量の力をたのんで」ねぎらつて下さい。一応の量だけでも東京ですかせた腹には「御チソー」になる筈ですから。（行きの切符は僕が出しましたから、婦りの切符は貴女が買って下さい。）

おみやげは、丁度まる二日警戒警報で外食券食堂と若干の雑炊食堂とを除いて全市の商店が殆ど揃つて休業（学校まで休業）したので、予定のものも買へませんでした。コールドクリームは、日本橋の白木屋の対角線向ひの柳屋で毎日二つづつ貯蓄券つきで買ひました。質がいいか悪いかわからないので、そちらで使つてみて、よかつたらまた買つておきます。他では大てい品切れです。

ひろちゃんは四日分の米と一日半分のパン（券では三日半分）をもつて行きました。パンは早苗へのおみやげ。

× ×

部屋と三畳の板の間の部屋、その七畳に分室責任者格の安間参事(将棋の上田君の好敵手)、十畳に僕と西井君との二人、西井君はまだ当分来ないから僕の一人天下。階下は英研四名と英文タイプの女の子二人。外に貴重書物及び重要文書も一緒に疎開したわけです。悪口屋の上田君の曰く「大切な本と不急不用の人間とを抱きあはせて疎開させたんだよ」。

※
僕の部屋は、明るく風通しはよく、おまけに西日がは入らなくて絶好です。こんな二階を二人で借りられたら、理想的だとも思へます。炊事が出来ないだけで、露台でカボチャその他の箱造りは出来るし、荷物や本棚を置く板ノ間もあり、洋フクダンス、小ダンスはたつぷりあつてしかもはめ込みだし。見取図は家へ帰つて書いたもので、階下の方は不正確です。なほ、この階上・階下・芝生・花、図にあるすべてを含めて家賃は月六百元、それ故この二階だけでも百円近いのでせう。

× ×

我々の往復書簡を整理しました。僕のは余りにも甘え(ここからあとの文は番号10の用箋に記されたもの―編者注)手紙なので、我ながら照れて大部分焼却。初期のものを若干残しました。当時の生活について一種の資料にもなるので。日記のかはりになります。幸ちゃんの書いた分は、さすがに大人の手紙なので、それにあの頃の貴女の心情生活の良さがよく出てゐるので、焼くにしのびず、且つ僕の焼いた分についての補ひにもなるので、残したいと思ひます。いつかさうした青春の生活の記録が何かになる時もあるでせう。その中本と一緒に小荷物で信州へ疎開させておきませう。

僕原稿は目下印刷中。来月中旬校正が出ますが、きつと大変だらうと思つてゐます。今年表を作つてゐます。アメリカ史へつけたのと似てゐるが、南部を中心としたもの。では又書きます。皆様によろしく。

五月二十三日夜

※ここまでの手紙文を記した用箋には1〜6の番号が付してあり、そのあと番号10の用箋およびスケッチ画一枚がつづいている。しかし別の個所に紛れ込んでいた番号7の用箋の文は、内容からみて五月二三日づけ手紙の番号6と10のあいだに位置するものと思われるので、ここに筆写・挿入しておいた。番号8・9の用箋が欠落している可能性があるが、スケッチ画にも番号が想定されていたとすると、文中にある「階下の方」の「見取図」一枚のみの欠落であり、手紙文には欠落がないものとみなしうる。

幸子から謙一あて（一九四四年五月二七日の記）

お手紙有難う。プシはどうしたのでせう。寛ちやんから聞いた時も涙をこぼしましたが、あなたのお手紙をよんで、思はず声をあげて泣き度い位でした。子供の死んだ時のように、本当に切ない心持が致します。何処かでいぢめられる位なら一そ、一思ひに死んでゐてくれた方がよい。

寛ちやんは毎日、朝や夕方、一人で自転車を乗りまはして方々散歩（？）して、大いに見聞をひろくしてゐます。さつきは二人で飯田へ行き（銀行へ用が有つた次手）あちらこちら歩きまはし、クボ食堂でオレンヂユース、東京庵でうどん（すばらしくおいしい手うちうどん、葱、海苔、人参、ごぼう入）を二杯、だしは本物の鰹節、高田屋でもう一度うどん（ここのは連根、みょうが）を食べました。おなががボン／＼になつて出たら、寿司屋のみどりは開いてゐましたが、どうにも食べられ相もないので、やめて帰りました。彼は今、お父さんと天竜峽へゆきました。帰つて来たら、吉田屋で肉なべです。

お母さんが昨朝から具合わるくねてゐますし、不二やんは長期託児所の所員になるので、鼎村役場へ会合のためチョク／＼不在で、私も、彼のおともをして遊びに出かけられません。これと云つたおもてなしも出来ませんが、いいあんなばいに、彼が来てから粉も貰つたし、お米のユーザーも出来、ミソも三貫匁手に入れるし、お赤飯は二度も貰ふ、と云ふ調子で、あなたがゐた時よりも豊富にあります。

先日、大鹿村の今井さんが一寸見えました。其時そちらに就職口はないかと云つたら、今足りんのは、自動車の運転手位のものだとの事でした。

勉強プランは立てましたが、確実に実行出来るのは、朝の英語と九時―十時のミケランゼロだけで、あとは客が来た、配給だ、何だ彼だと呼ばれますし、何時も二階に引きこんでゐると云はれるのも嫌ですから、もうすこし様子を見て、確実なプランをもう一度、或は二度と立て直すつもりでゐます。第一回目のは、あれは自分一人の家でのプランになりすぎてゐること、あんなにキチン／＼と、自分の方では其の時間を取れても、客観的にはとれぬこと等で、目下、特に手術がいそがしい、来客多い、お母さん病キ、ふうちやん外出勝で、ひるまは二階に殆んどゆけません。

夕食も、病院の手術の都合で七時半頃に始まる日もあつて、そんな時は後片つけがすむと八時半になります。

こちらに来て、さつそく友の会に入れさせられ、其の仕事、会合、それから区常会等々。中々思ふ様に本もよめません。まあ、間借りをするか家を持つまでは、プラン通りにはゆくまいと思はれて、いささかイライラする心持もあります。

コールドクリームは大変質がよい様でした。有難う。当分は、まにあいさうですが、飯田にはゼン／＼ない様ですから、買ひ易かつたら、時々買つておいて下さい。

本は置くところがないから、との事で当分はひろげぬ方針で、看護婦部屋の押入に箱にいれておきました。まだ、後から来た小荷物分や箱七杯は、出してゐません。二階にある硝子戸入りの大きい本箱(一間の間)は三ツ位羽生さんにあづけてある相ですから、家を持つたらあれを貰ふことにしませう。埃もはいらぬし、立派です。カギもかかりますから。(お父さんには貰ふ約束してゐます)私もこちらで仕事は沢山あり相ですが、秋になつてからもつと丈夫になつてからとお父さんは云ひますから、当分は止めてゐます。病院の健保の事もやればあります。これは其の中(八月から)やるつもりでゐます。

桃ちゃんとの共同勉強は量的にははかばかしくありませんが、質的には前の大金さんたちよりもスラ／＼とスムーズにゆくので面白いです。

事務所が良いところに越してよかつたこと。それに部屋の条件の良いこと。——うんと勉強出来るでせう。野菜類は出来る丈送りますから、買出しには時間をとられぬようにして勉強して下さい。私も気持の上でのキン張や向上、対人関係等について、よく／＼考へつつあるつもりです。

昨日の朝の十時頃、松川のほとりへもち草つみにゆきました。寛ちゃんも苗ちゃんも三人で。野ばら(シユーベルト)の白い花、アカシヤの花が咲き盛りで甘いにほひに充ち／＼蜂のブン／＼云ふ声、うす青い河の流れをみてゐると、そこはかとなない五月の哀愁と云ふ様なものを感じ、若い時に感じた様な、やるせないような悲しみを覚ええました。

お母さんと不二ちゃん、チヨイ／＼意見の相違から喧嘩をします。お母さんも不二ちゃんも怒り出すと方々へ余波が来るので困ることもあります。私は絶体に怒らぬ方針です。尤も怒る様な事も私にはありません。

大金さん、西山さん、度々手紙をくれます。西山さんも、八月までには九州へ疎解する相です。二人とも勉強癖はしっかりついてゐる、そうして英語の方もドン／＼進めてゐるとのこと、安心致しました。

寛ちゃんは二、三日うちに帰京する様な事を云つてましたが、もうすこしゆつくりしてゆく様にすゝめてゐます。

今日はトシちゃんからお手紙貰ひました。トシちゃんには明日書くつもりですから、よろしく云つて下さい。トシちゃん云へば、医者へ行つたかしら？ すゝめておいて下さい。どうも顔色が気になりますから。辻岡奥さんに、あなたのキモノの件、時々云つて見たらどうかしら——。私の方から手紙出しておきませうね。

廿七日

謙一様

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年五月二四〜九日の間に記）

下痢はもういいのですか。背中はまだ痛みますか。その中いいものを御送りします。背中を軽めるための機具です。

コールドクリームはもう買はなくていいですか。日本橋へは週に一回（火曜）出るだけで、専ら経堂に来てゐますが、クリームぐらゐ買へます。

野菜はナップパ類が割合配給されるやうになりました。竹ノ子とか、ごぼう、にんじん、大根、かぶら等はムロン配給ありません。だが、さう御心配には及びません。無いなら無いなりにやつて行くことに大分馴れて来ました。尤も米だけは深刻です。僕が経堂へ来るやうになつてから、弁当以外に昼食出来なくなり、緩和の手段がなくなりました。パン二斤を米一升にかへる工夫をしてゐます。サトウを米にかへることも考へてゐます。近頃、ひろちゃんが信州へ行つたあと、二人はずつと夕食を米半分の雑炊にし、ナップパやふりかけやねぎや凡ゆるものをぶちこんでのばすことに懸命です。何しろ廿八日の配給には七キロ近くさしひかれて、結局三人の十五日分として六キロしか来ないことになつてゐるのです。利ちゃんもひろちゃんも、そこまで考へてはゐなかつたらしい。利ちゃんには当分腹の減ることを覚悟させました。（コップ一杯は八勺より多いらしいのです）だが貴女は心配しないやうに。そしてひろちゃんも、さう米を持つて行つてゐるのでないから、そちらの食糧事情を陰悪にさせないやうに、いい加減に帰らせて下さい。今月は僕も厄介になつて、大分信州のお米の予定を狂はせたのですから。

プシが帰つて来ました。やつぱり平凡なただの猫で、神秘でも何でもなかつたのです。だが帰つて来てよかつたと思ひ

ます。十日も帰らなかつたのは、プシのヘソのヲ切つて始めてですからね。さんざん泣いて甘えました。丁度いわしの配給があつて、利ちやんは一パンでかいのを放蕩息子の帰宅のお祝に、プシに食べらせました。大分やせたし、声が一時はすっかり変にシヤガれてゐましたが、もうなほつてゐます。前よりかわいくなりました。だが、それと共に彼の食物の心配がまたふえました。僕の朝飯か弁当の分から少しづつ残してやつてゐます。尤も十日も出歩いたのに大してたべないので、半ば不安、半ば安心と云つたかたちです。

経堂の研究室は中々よろしく、これなら、ここへすつかり泊り込みの方がいいのですが、下宿するとなるとまた難物は食糧と猫です。この辺の下宿は二食しかたべらせてくれません。

幸ちやんも、もう少し元氣になり、空襲の危険もなささうだつたら、一度遊びに出て来て、経堂へもやつて来ませんか。乗り換へ二度は面仆ですが、電車は空いてゐて、楽です。家からゆつくり歩いて四十五分で来られます。

新庄君が召集されたので、明日曜日、バクさんやいねちやんと練馬へ行きます。古野君も六月入隊です。おつつけ僕の番でせう。利ちやんは延期があることにきまりました。では又。

幸子から謙一あて（一九四四年五月三〇日の記・消印）

五月卅日

昨日は御手紙有難う。お米は何で七キロもへらされたのでせう。私のゐなくなつたためですか。その代り粉が配給されたではありませんか。粉を何とかして入手したいものと思ひますが、こちらに来てから日も浅く、なじみもないし、この家でさへ早苗のオハツに粉がなくて困つてゐるので、そんなには頼めず、——何とも致してあげ様もありますん。お米も、私に来てから羽生さんから三升都合して貰ひ、特配（疎解者の出入りのため）六キロ貰ひましたが、寛ちやんの帰つたおひるから全くなつたので、おひるは、新飯田橋のそばのうどん屋に、夜はおぢやに、——今日のおひるは、吉川と云ふ矢張り橋のそばの飯屋に揃ろつてゆきました。家になくても出れば、一度五十匁か六十匁でうどんでも丼飯でも必ずあるのでですから、楽なものです。吉川はベルトをゆるめなければ苦しい位のポリュームがありました。お母さんは、看護婦たちとぞろ／＼飯屋にやるのはみつともないとか、家に持つて来させるとか云つてゐますが、田舎でも人手不足で運んでなんか来ませんし、そんな事を云つてゐると忽ち嫌はれて、断はられる様になりますから、定期

的に極力ひるは外食にゆく様にすゝめてゐます。お母さんと云へば大分お母さんも変りました。一言に云へば老人になつたのです。昔の習慣を変へること、人の意見を容れることは大の嫌ひ、何一つでも自分の思つた通りすぐにやらなければひどく機嫌わるく、それが積ると病氣になります。病氣になつても、二階で一人で寝てゐる事をせず、帯ひろはだかと云つた様子で下の部屋に来てゴロ／＼して、一、一、うるさく云ふので不二ちゃんも困つてゐる様でした。

大分二、三年前の陽気なところは影をひそめ、大体に於て毎日甚だ御機嫌わるい様です。それと云ふのももう年も年で、疲れ易く全体に弱つてしまつたので、気ばかりあせるが思ふ様に働けぬこと、人のやつた事は何一つ気に入らぬせいでせう。早苗ちゃんの事でも、不二ちゃんの教育方針とは相容れず、事々に衝突して二人とも怒り出す始末、下手に私が口をいれたら、どの子も親不孝とて大変です。

お母さんは疲れて神経もいら立ち易くなつてゐるので、本当を云へば、看護婦さんもおかず、お父さんと二人で十五、六の女ノ子を一人位使つて静に暮すのが、一番よからうと思はれます。子供のなき声、電話のベル、食べ物心配、人の出入りは禁物でせう。時々私にも、私たちがすこし広目の家を持つて、不二子たちと一諸（お）に住んでくれゝば、家賃は出してやるなんて事を云つてゐます。

今のところ、私の一番のトラブルは結局、お母さんです。忝はわるい人ではありませんが、相等（お）わがまゝで、お母さんの嫌ひな事は誰にもやらせたくないので。一例をあげれば、本を読む事はぐうたら（お）の一種だと思つてゐるので、不二ちゃんはお母さんの起きてゐるうちは本はよめません。『子供をみてやらぬ』からと云ふのです。子供の無い私にして、も、本ばかり読んでゐる！』と云ふ事は、甚だ氣に入らぬことで、ひるま二階にゐると面白くないのです。下にゐても用はありませんが、とに角下で喋つてお茶をのんだり、ブラ／＼してゐる方が好きで、お母さんが『ホイ』と云つて何か云つた時、すぐに興味を起して、あれ、これ、一諸に騒げば調子は大変によろしい（お）ようです。

始めはどうもそれでは困ると思つて一諸につくろひものをする時、誰か一人本を読みませう、と云つて始めましたが、お母さんは忽ち外の事を喋り出す、返事をしないとごきげんわるくなる。不二ちゃんが『やかましいなア、ちつたア本をよみまいか！』と云つた事から、又、一けんかで、それでも三度程強行しましたが、漸次悪結果の方向をたどる一方でありましたので、止める事に致しました。

で、もつぱらひるまは下にゐて、つぎもの、早苗のちらかした後を追ひかけ／＼掃除、お勝手、配給と云ふ事になりまして。で、始めのプランは、次の様に変更致しました。

前	5 $\frac{1}{2}$ —1 $\frac{1}{2}$	英語
後	6—7	經濟
〃	7—8	英國史
〃	8—9	アメリカ史
9—10		ミケランゼロ

来ぬ形になりました。

お母さんは自分が中心になつて出来ぬ事は一切嫌ひ、嫌ひ丈と云ふ消極性でなくて、止めさせようと云ふ積極性が多いに強く、反対に強行すると、外の人にまで当つてゆくので、人迷惑となると云ふ結果になります。

で、結局、自分のプランでは何事もスムーズにはゆかぬのです。私が今日は下の廊下のゴタ／＼を整理するからと断つて始めても、お母さんは其の日／＼の出来心で始めかけたものを止めさせて外の事をさせようとする。それをやりかけると次々追ひかけて變つてゆくので、何一つ完全に出来ません。併し、やりかけはそのままにしてあれば又、いけないのです。私もホト／＼困りました。そんな次第で本を出す事は当分出来相ありません。家がみつかるまで、このまゝ持ちこす事になるのではないかと案じてゐます。

そちらにゐても私は皆の迷惑のまゝでありました。人の神経を刺戟し、感情的に不愉快にさせ、よかれと思つてした事は、全部悪結果ばかり生みました。私としては四月から会社の方も辞め家で用事をして、たとひ消極的でも、皆の役に立ちたいと思ひました。あなたも何時応召になるかわからぬから、それまでも一諸に暮し度いと思ひました。でも私はうるさがれ、嫌はれ、帰り度くないと極力申しましたが、帰されました。〃ぢやまだから帰れ」と云つた調子は今でも耳の中に残つてゐます。今さらチヨ／＼東京へいつたり、あちらこちらゆく心持はサラ／＼ありません。晩くも秋までには鼎村附近で就職するつもりですから、今後は尚更の事と思ひます。又、あんな思ひはまつ平ですから。そこらは三人で理想的な生活に立ち直つて、皆、勉強専心でせう。

それから、鉄工聯から私の月給(五月分)届きましたでせうか。飯田の方へは何とも云つて来ませんので、内藤嬢でも、又、持つてゆきませんでしたかしらと思つて、おたづね致す次第です。

不平がましい手紙になりましたが、実を云へば、私には自信もなく、心樂しまず、と云ふ神経衰弱的徴候が濃厚にて、

甚だ淋しい毎日ですから、あしからず、お赦し下さい。

謙一から幸子あて（一九四四年六月二日に幸子受信）

ひろちゃん、帰京にまたいろいろお土産を御心配下さって有難うございました。お母様及び不二子さんにどうかよろしく御礼を申し上げて下さい。

あなたも肥つたさうで大変結構です。

この日曜日、練馬の新庄君の所へ行つて出征を送つて来ました。彼は第二国民兵です。隣家の富次さんも応召しました。前便に書いたやうに古野君も、晶子の所の大島君も応召です。非常に広汎に来てゐるので、我々も覚悟してゐます。

一両日中に小包がとどくでせう。ネールの、「娘インディアラへの手紙」は桃ちゃんと二人で読みなさい。そして読んだ後は桃ちゃんと進呈して下さい。中の葉巻は去る廿九日、調査会の第三周年記念日の将棋大会にA組で優勝して金十円也と一緒に貰つた賞品なのです。之で二度優勝して自信をつけたかたちです。

早苗ちゃんにパンでもと思つたのですが、目下我々は一日に三人で四合七勺か八勺しか米を食べられない窮状にあつて（パンを米にかへても）、残念ながら当分駄目です。

この廿八日の配給はやはり七キロでした。だが厳密に計算して（パンを米にかへ、空襲用を出し）、先づうまくやつて行けさうです。夜寝る前に、翌日の朝と昼との分として三合半の米を炊きます（じやがいも、ふき等を入れる）。朝、その中から三人の弁当をつめ、残りをねぎ、かぶらその他を入れて雑炊にします。夕食は一合二勺を三人分の雑炊にひきのばします。結局みそ汁もおかずも要らないので、ガスも節約になり、多分ガスをとめられなくてすむでせう。経堂附近では昼の外食は全然出来ませんが、その中農家にわたりをつけ、酒やサトウをいもやメリケン粉にかへるサンタンをやらうと計画してゐます。（竹中君が一番困つてゐます。何しろ彼は維持せねばならない巨体（今や虚体）をもつてゐますから。竹中君がこへ来たことは、僕の金庫がくつついて来たやうなもので、甚だ都合です。彼も調査会へは入つたことの唯一の意義は僕と話し合へることだと云つてゐるので、僕も大威バリで金庫をつかつてゐます。）

（竹村君から、ネール自叙伝上下二巻（彼の翻訳）を、菊池御夫妻へと署名して送つて来ました。面白さうなので、読

み了つたら御送りします。)

猫はまた帰つて来ません。メシが助かるので、却つてその方がいいやうな感じもします。冷酷なやうですが。

僕は三月末以来ストップして来た勉強を新しい条件で再建すべく努力してゐますが、まだ軌道にのらず、六月一日からキンコン一番せねばなりません。利ちやんも毎朝時計無しでも五時に起き、時々表を掃除したりします。ひろちやんは今日今井正の所へ行きました。近い中東宝へ遊びに行く予定。ではあなたも御元気に。せいぜい僕の分まで肥つておい下さい。皆様によろしく。

(和歌山からどう云ふわけか、「疎開費用でヤミのものを買つたりしてケシカラン」と大分怒つて来ました。疎開費は僕の旅費、ヒロチヤンの旅費、彼等の慰労費を含めて四百円から五百円要つたのであり、ヤミのものを買つたのは別に借金をしたのだと弁解しておきました。離れてゐると何かと誤解や行きちがひでやつかないものです。原稿料が入つたら少しづつでも返して行きませう。)

幸子から謙一あて(一九四四年六月二日の記)

十九・六・二

明朝、お米一斤とさやゑん豆少々郵便小包でお送りします。さやえん^(豆)は此からドシ／＼出盛りになりますから、数回送れる事と存じます。蕪類は小荷物で送つても、いたんでゆきませんかしら。大丈夫なら、不二ちやんの苦心の蕪類を多少送れます。今、農家は、春蚕、しろかき、田植、麦かり等、猫の手も借り度い時期だ相で、畑に行つても自分とつて呉れ、とてロク／＼返事もしませんし、売りもあまり出てゐません。

坂田さん再度の出征でお気の毒ですね。ちようど一年、自家^{うち}に帰して呉れたわけなんです。新庄さんですか。新庄さんは丙の何だつたのでせう。古野さん、大島さんは丙ではないのでせう。いよく／＼あなたにも来ますね。

今日ひるねをして、あなたが応召する事になつて、和歌山から其の事について手紙が来てゐる夢をみました。私には来ないように、と云つてあるので行かぬ方がよい、とお母さん達が云つてゐるところでした。起きて下へ行つてあなたの手紙を見て、いよく／＼と云ふ感じが致しました。さうなれば、原宿の家もいよく／＼解散になりますね。荷物はどうするのですか。私も又、そちらに行つて、片づけをせねばならぬのでせうか。

しようぎで勝つたのですつてね。うれしかつたでせう。寛ちやんからの手紙にも、さう書いてありました。本と葉巻煙草お送り下さった相で、どうも有難う。お父さんもよろこぶ事です。お父さんもおぢいさんになりました。すぐ疲れるのか、よく藤の長椅子でひるねをしてゐます。其の顔を見ると、つくづく弱りはてた様子で、淋しくなつてしまひます。田舎では、休診と看札を出しても平気で患者は来るし、お父さんも平日と変わりなく手術もすれば、診察もしてゐるようですから、疲れるでせう。

今日も本来なら休日ですが、朝食前に松尾まで往診やら回診、今は午後の九時半ですが、これから脱腸の手術です。患者は黒田の篠田さんの長男で、今日、苗代をやつてゐたら、急に脱腸した相で、そろそろッといぢかりまたで夕方やつて来ました。夜になつてから篠田さんが来て、手術用意、これから始まることです。

お米は全般的にそんなに減らされたのでせうか。私一人へつたのを配給所の方で二人減だと感違ひしてゐるのではないでせうか。通帳を調べて見たんですか。七キロで三人、十五日分とは割当量ではないでせう。それとも東京の割当量がそんな風に変更されたのですか。そんな様なら、生きてゆく訳にはゆかないぢやありませんか。応召にならぬうち、さつさと疎解する様になさる訳にはゆかないの？ 仕事の方、出来る丈早く段取りつけて、さうなさいませ。そんな様子では、兵になつても身体は持たないでせう。秋まで、とか頑張つてゐないで、早く疎解なさるよう、結局、おすゝめ致します。

私の五月分の月給どうなつたかしら。そちらへも行つてないなら、鉄工聯の会計にサイ足しなくしてはなりません。鉄工聯も六月一杯で解散、七月一日から鉄鋼統制会になる相です。

和歌山から怒つて来なすつた相ですね。あれは、私がお母様宛に、こちらから手紙を出した時、東京の食料不足の深刻さの説明の時、東京で生きてゆくためには、まるでお金を食べるようなものだ、戴いたお金もその足しになつた、と書いたためです。それにしても、御自分の方でも海苔のヤミやなんかなすつておめでだし、上手に物資を入手しておるんだから、——まして東京程の深刻さは経験ないんだから、そんなに怒つてよこしなさるのは、あんまり勝手すぎると思ふけれど。ヤミがいけないのなら、すこしは物資をユウズーして送つてあげればいいぢやありませんか。*

※ここが三枚目の便箋の末尾で、四枚目は見あたらないが、手紙文の終わり方としては、いささか唐突の感もあり、四枚目以降が欠落しているのかも知れない。以下、同様の欠落の可能性があつても、いちいち注記しない。

謙一から幸子あて（一九四四年六月四日の記）

貴重品を御送り下さったさうで申し訳けありません。信州も不足のこととて心配させるつもりはなかつたのです。七キロ配給と云ふのは、本来は三人で（一人、半分パン）十五日間に十二・三キロの所を、前回先渡量和と、貴女の分（十五日異動申告、従つて十三日分）とで合計六・八八キロ引かれたのです。結局はつきり云へば、僕達の留守中、少し余猶がある^⑧と云ふ意識から二人が腹一杯食べすぎたらしい。いろんなストックもずい分食ひ込んでゐました。あつちやんが来た時ムシパンを作つたとか、雑炊も米節約のためでなく、より多く食べたいためにやつたのでせう。利ちやんも二十八日まであればいいつもりだつたらしく、二十八日の配給でうんと引かれることを全然考へてゐなかつたのです。ひろちやんが行つてから僕が計算して之では足りないからと、それまで彼等がコップ一杯と云つても多めにはかつてゐたのを減らし、一日の分量をきめて嚴重にやり始めたのですが遅かつた。でも今度は二人とも大分こたへたから、之から僕がゐなくても注意するでせう。腹がへるので無理もないのですが、弁当も持つて行けないことになると、今一番困るのは僕ですから、当分僕が毎日米をはかつて、それを勝手につけ加へたりしないやうにしよう云ひ渡してあります。二人は弁当は十時頃にたべて、昼はどこかで食べてゐるさうです。僕が大い留守で、二人で留守番する時が多いのですから、その留守中メリケン粉でおやきをつくつたり何かすることにちつとも干渉しないつもりですが、米だけは僕がすつかりきめるわけです。僕も昼は全然外食出来ないが、夕方は帰りに、六丁目の支那料理がゐてゐれば、うまに（野菜煮）を食べ、夜の雑炊をいくらかでも二人によけい食べさせるやうにしてゐるし、弁当も二人の分を余計入れ

るやうにしてゐます。弁当はどうしても二人の分を多くしないと^{（かっか）}かっこうがつかないのです。米はひろちやんもパンとかへるルートが出来たし、もうちきに、一日二回雑炊の境地から脱し得るでせう。現在は一日五合と計算して丁度十三日まであります。間もなく、一日六合程度に出来るでせう。

幸ひ、雑炊やごはんにまぜるものがこの頃ずつと多いので大助かりです。いただいたジャガとふきとはまだ数日分あります。之はごはんに入れます。雑炊へ入れるものはかぶら、ねぎ、きやべつ、菜葉等ですが、之は経堂で殆ど毎日自由販売で買つて来てゐます。経堂は昼の外食のあてが全然ないかはり、野菜がやすく豊富にかへるので、その点研究室移転は有難いわけです。少くとも職業費は殆ど交通費だけになりました。外には帰りの六丁目のうまに^{（ら）}ぐらいのもので

す。

以上の如くですから、やって行けます。どうか御心配なきやう。野菜もさう苦心して御送り下さらなくてもいいです。僕もなるだけ早く信州へ行きたいと思つてゐます。職と家さへ見つければ行きます。職は、今、戦争史を今井先生の監輯でやつてゐるのが終れば、今井先生に相談するつもりです。

上田君達の独研が、上北沢へ疎開します。僕等の所から歩いて三十分。応召は、あとかたづけは利ちゃんたちにたのみますから、大丈夫です。友人達にもたのめるでせう。それにまだ丙の甲までしか来てゐないと云ふ説もあります。今年の点呼のある人達（昭和五年以前の丙）の訓練は、毎日朝四時から七時まで十二日間、之が第一次、第二次は七月にと云ふ回覧がまはつて来ました。僕達の方が楽だったわけ。

貴女の月給来ませんから、直接会計へサイソクなさい。解散がのびたのなら、辞職届けも出さねばなりませんね。之は休職切れの時でもいいでせう。

ひろちゃん旅行を大変喜んでゐました。夏にはどうしても姉さんに和歌山へ来てもらふのだと云つてゐます。所が、彼の入営は十一月になりさうです。さうすると十月半ばがいいのぢやないかと云つてゐます。その頃ならみかんも色づき、絶好でせう。僕も行きたい所です。夏は暑いばかりですから。

僕は今ドストエフスキーばかり読んでゐます（カラマーゾフ、罪と罰、悪霊、ネートチカ等）。ドストエフスキーの欠陥が次第にはつきりわかつて来、また彼が今のインテリや文学青年に好かれる点もよくわかつて来ました。ドストエフスキーの世界は結局日本ならみやびの世界なのです。いづれにしても歴史的現実の正道ではありません。彼の世界の人物には我々が正しい感情と理性とをもつて打ちこめるやうな夢中になれるやうな人物がまるでない。どんなに深刻さうに見えても、現実の深刻さでなく、何か作られた深刻さのやうで、探偵小説を読んでもゐるやうな気楽さがあり、読後ここに提起された問題は我々の胸に残りません。問題はドストエフスキー的に提起され、ドストエフスキー的に解決されて了つてゐるわけです。バルザックやトルストイやシェークスピア、ロマン・ローラン等は、読んだあと我々の胸に打ちこまれた刀を残します。問題は提起され、我々のものにされるのです。そのうちこまれた刀を抜き、傷を解決するのは我々の任務です。リアリズムの質の差が彼等とドストエフスキーとの間に感ぜられる。

仕事は今月が一番多忙でせう。

君の勉強もいろいろ障害多いでせうが、当分先づ君の身体と神経とを恢復させることに全力をあげて下さい。勉強は僕

達二人になつてから改めてプランをたててやりませう。僕も今の仕事が終れば、我がまま云はず、自分の卑小な自我の克服の努力をやるつもりです。君にはこの半年乃至一年来（或ひはもつと前から）僕の我がままで苦勞させ、神経を悩ませましたが、今度はもうさう云ふことのないやうにするつもりです。僕も自分の感情の狭い、神経のケチくさい、無私も献身も無い、ナーヴァスな卑小な自己中心主義につくづくいやになつてゐます。今の三人共同生活も、僕にはいい修養です。こんな風に自分の自我に囚はれて、それを克服出来ずに苦しんでゐる時は、ドストエフスキーの中の宗教的忍従の理想化された観念的人物さへ、時々関心の対象になります。

幸子から謙一あて（一九四四年六月四日、五日の記）

六月四日

昨夜十一時半頃すりばんの音で目をさました。天竜社の裏が真赤で、病院の屋根も庭も火の粉をかぶつてゐるので、びつくり致しました。とに角、モンペその他で身支度して、不二ちゃんを起して、裏庭からはしごをかけ、屋根へ一足かけましたが夜露ですべるし、馬穴うまぶちと云つても私と不二ちゃんとお母さん丈では、後が続かず、桃ちゃんはぐつすりねむつてゐるし、看護婦さんたちは外へ飛び出して火事場見物にいつてしまふし、つくづく男手のない事の不便を感じました。其の中、風の方向が變つて火の粉も来ず、下火となつて、一時間後には鎮火致しました。

近所は皆屋根に水をかけました。火元は線路の向ふの北原農園の隣で一番大きい家が二軒まる焼だ相でした。お父さんは何時のまにか、北原農園（原宿の家に富ゆ柿を送つた人）へ見まひ（？）に行つてお茶まで呑んで帰つて来ました。家ではあはててゐたのに、呑気な人です。北原さんでは風上で庭をあげはなして、見物してゐたんですつて。

医院の前の羽生さん（荷物をあづけてある家）は昨夜赤紙が来て十三日に出発ださうです。いよ／＼私共も応召が現実的になりましたね。不安とも何とも名じようし難い氣持に圧迫されて、そんな風な夢ばかり見てゐます。

外の誰でも感じてゐるのでせうが、——あなた自身は如何ですか。来たとしても九月になつてからの様な氣がします。が、それ以前に早く切をつけて（或はつけなくても）早く疎解そげしていらつしやいませんか。こんな風に離れ離れで暮してゐて、そんな事になるのは何とも云へず嫌でなりません。

六月五日午後五時

本日小包み落手、いろいろ有難う。ネールの本は中々面白さうですね。よむ時間を早く探しませう。目下又、時間割変更、次の様になりました。

午前中一時間	午後二時間	夜半時間	夜任意の時間
月 英語	経済学	ミケランゼロ	シュベグラ―西洋哲学史
火 "	アメリカ史	"	● アメリカ関係参考書
水 "	英国史	"	▲ イギリス関係参考書
木 "	経済学	"	● シュベグラ―
金 "	アメリカ史	"	▲
土 "	英国史	"	
日	週間まとめ	自由	

●は目下、アメリカを支配する六十家
▲は、エドワード七世とその時代

●・▲は、順々によんで変へてゆく予定

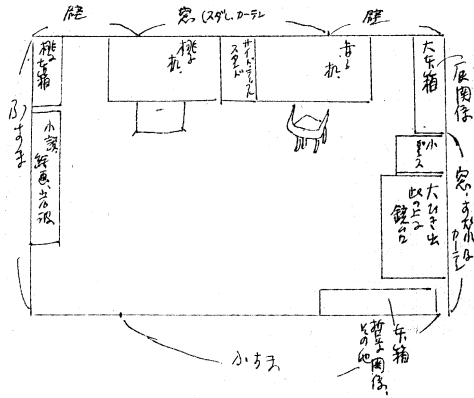
尤も今度の研究室はすばらしくよささうですから、それも惜しいですね。どうもうまくはゆかぬものね。あつちよければこつちわるし、でね。では身体に注意してせいぜい勉強なさいまし。寛ちやんの診断書同封致しますからお渡し下さい。お豆をフットウ一杯手に入れました。その中、何か、外のものと一諸にお送りませう。

六月五日夕

幸子から謙一あて（一九四四年六月七日の記）

六月七日

さき程、大豆一缶お送り致しました。強火でいたため、お塩をふると、一寸お八ツにおいしいです。患者さんから貰ひ



卯 世個

その他、草もち、普通のもち、干魚等々、あります。だからゆうずうは勿論して貰へませう。桃ちやんの部屋はこんな風に改良致し、とても都合よくなりました。殊に午前中は直射光はなし、うすみどりつぽい光でとてもくいいきもちに落ちつきます。今月の終り頃にでも、あなたちよいと来ませんか。こちらでほしいものは、

箸箱 (一人用) 父用

千代紙ではつた箱 (看ゴフ3人)

香水 (不二子)

来る時は、こんなものでも用意して来て下されば結構です。

新飯田橋の郵便局へ五〇〇円貯金致しました。

ましたので、すこし上前をはねてもらひました。

明日から早苗は幼稚円ゆきで、家も静かになるし、あまり汚くならないから、追ひかけ掃除もなくなつてずいぶん助かる事でせう。今度はお母さんとも相談して、時間を多少合理的に使へるかと思つて、よろこんで居ります。お前の件、困つた人たちですね。それならば足りなくなるのは当り前です。まあ、もう暫くの事でせうから、其の点の事はがまんするのでせうね。家は村長さんにも頼むつもりです、あなたが来るときまればすぐにでもあらうと思はれます。仕事もあまり文句さへ云はなければいろいろある様です。私だつて、秋の始めまでには適当な仕事をみつけて貰ふ事になつてゐますから、田舎で二人で働いてゐたら、何とかなつてゆくでせう。

それに、此の家の近くにゐれば、食べ物の方は、患者さんから貰ふものだけでも、此の三日間位に、

大豆 五、六升

えんどう 一、二、三貫

鉄工聯から月給、今月二日附で来ました。こちらから、領収証と診断書送りました。(病名は相不変胃下垂です。期間一ヶ月)食事代、勤勉手当がなくなつたので、手取り五十三円二十銭でした。こちらへ来てからの小使内訳は左の通り。

以上、八十円八十八銭使ひました。其中、私用でないもの四四・一〇銭です。あと四十円足らずは食費と小使ひです。これからはこんなに使ふ事はありますまい。食費と小使ひで三十円すこし位なものでせう。

今日も一日、これと云つて用も出来ず、本は一枚もよまず、もう五時になりました。

5-15	葱1貫匁	.50
5-15	謙みやげ	2.10
5-16	汽車代	14.50
5-17	謙へ (コールド付)	20.00
19	切手	.70
19	花	.30
20	たばこ	.46
21	経木帽子	.50
22	光	.45
	切手	.03
26	そば (寛と)	1.40
26	切手	.70
26	茶 (寛と)	.30
26	クリップ	.25
27	汽車代 (H)	7.00
27	たばこ	.30
29	桃子へ	5.00
29	食費	15.00
31	貯金	5.00
		<hr/>
		78.49 (ママ)

6月		
6-3	小荷物	1.00
6-4	早苗オモチヤ	.19
6-7	かきとめ	.50
6-7	切手	.70
		<hr/>
		2.39
		<hr/>
		78.49
		<hr/>
		80.88

鉄工聯から(大金、内藤)便箋やフットウ、クリップなど十冊位送つてくれました。(勿論会社用です)では今日はこれでさようなら。

謙一から幸子あて (一九四四年六月一〇日前後の記)

小包を有難うございました。之で先づ食糧事情の困難も解決出来ました。今日あたりから各人、規定通り毎日一人当り

二合三勺程度になつたわけです。パンをも計算して。サヤ(エ)エンドウは、ふきがなくなつたのでかはりにごはんに炊き込んで、えんどうめしにして弁当につめてゐます。御迷惑をかけて相すみません。お母様、不二子さんよろしく御わびと御礼とを申し上げておいて下さい。之からはあんな悲鳴をあげずにすむやうにやります。野菜は、さやえんどうとか豆類等以外は、こちらで充分間にあはせられさうですから、御心配なく。豆なども、特に沢山は入つた時だけで結構です。余り御心配されないやうに。今日も経堂の知り合ひになつた農家で、中々美事の大根を夫々三本、金四十五銭で(五、六人一緒に)買つて、相当重いおみやげが出来ました。此の間買つたつけ菜はずい分沢山だったので、ひろちゃん二人で漬物にしてまだ半分ぐら(お)いあります。ひろちゃんも高園寺で菜葉をもらつて来ました。なくなればいつでももらへます。なつばのつけものを弁当のおかずにもしてゐます。利ちゃんは数日前、夕食前にどこかで食べたもの(かにか何か)に当つて大腸炎を起し、今村医院で薬をもらつて二日ばかり絶食して寐ました。昨日からパンをたべてゐます。今日から学校へ出てゐます。

今日、小包を送りました。あなたの背中のいたみを一人でもむための機械(?)です。火事があつたさうで、心配したでせう。今頃の火事はもつたいたいすね。

召集は切迫してゐるやうです。北山君(丙の甲、和歌山)も応召しました。応召は、こちらにゐる中の方が、調査会の月給がずつともらへるからいいやうに思ひます。戦局切迫し、またあなたの生活を軌道へのせるためにも早く疎開したいとは思ひますが。

僕は相かはらず仕事のテンポがのろくてあせて神経的になつてゐます。考へれば考へるほど、僕の研究の意義が重大であり、面白いので、なるだけ早く、生活の決定的中絶の来るまでに、せめて問題提起だけでもやつておきたいのですが、力が及ばない。僕は昨年来、自分の研究の独創的意義をはつきりつかんで以来、それを掘り下げ、思ふ存分展開したいと云ふやみがたい欲求をもつて来ました。しかも生活の決定的中絶は、ダモクレスの剣の如く頭上にあり、それがたださへ本来的無力から来る僕の焦慮をいやが上にも刺戟して来ました。実際いくらかでも充実に自分の研究と著述とに精神及び精力を集中出来たのは、十二月下旬から三月中旬までのまる三ヶ月足らずで、それさへ厳密に云へば障害や気泡だらけだったのであり、あとの時日は大部分、何か外的な故障とそれとつながる内的なスランプとで多かれ少なかれ空費して来てゐるのです。特殊な外的故障を除けば、日常的障害の主なもの、結局調査会への勤務と家庭生活と、すなはち自分の生命を維持するに必要な市民生活、個人生活そのものだったのです。そして僕自身は自分の研究の独創

的歴史的意義の大きさを自負し、この研究発表と云ふ僕の社会的または歴史的行動は、市民生活や家庭生活よりももっとと普通性^⑧のある、価値多きことと見、そのために市民生活や家庭生活の従属（多少の犠牲）を要求する権利がある、もつと周囲の人に援助を要求していい程のものと観じたのです。所が自分の研究の意義を、あなたさへ充分理解してくれない、いやその意義を妻にすら理解させ得ない以上、僕の要求は単なるわがまま、自己中心主義にしか思はれなくても仕方ないことでした。しかも我々の結婚生活の根本原理は二人の平等と云ふことであり（家計上の平等要求は徒らに我々を勘定高い夫妻にしてしまったが）、その原理はばくの自己中心主義を許さなかつた。僕は結局自縄自縛に陥り、論理的に自分に全く分がなく、しかも仕事はすまないとなつて、焦燥がつつのり、やがて僕の研究を充分させてくれないすべてのこと、僕の精神力の集中を妨げ、わづらはせる一切のことにカンシヤクを起し、神経を立て、そこへ僕本来のわがままも相乗して、横暴な、ヒステリックな、ケチくさい、我利々々なわがままや、氣むぶかしやになつたのです。之があなたをこの一年近く（それまでも無論あつたが）苦しめ悩ませて来たのです。いはば、あなたに僕を甘やかしてもらふこと、勝手にさせてもらふこと、世話してもらふことだけを要求し、その要求が容れられないので、あなたを邪魔にもしたのです。今も僕は、二人の学生との共同生活にわづらはされ、何とか一人きりで、誰か食事とかセントクとかを一切やつてくれて、自分はやりただけやれる、さう云ふ下宿生活をしたいものに痛切に感じてゐます。実際には二人は配給とり、留守ばん、その他いろくゝとやつてくれるし、疎開も事実上大いに彼等に負つてゐるのですが、それでも僕は仕事の邪魔に感じます。体臭^⑨さへいやになります。自分ながら何とわがままでケチな人間だらうと呆れ、嫌悪を覚えます。あなたが僕をどんなに卑少な禦^⑩しがたい専制者に見、恨み、憎んだかもよくわかる氣がします。あやまります。あなたが病気にさせ、邪魔あつかひして疎開させ、今も不便な中途半端な生活に置いてゐるのもすべて僕の上のごときわがままなんです。だがもう暫く待つて下さい。僕の本が出、一通り今の仕事の材料をあつめ、調査会や芦野氏への義理を果たしたら、今度は大いに精神修養して、市民生活や家庭生活の義務に対して良心的になり、あなたの善良な夫になりたいと思ひます。自我をすてることの出来る人間、ちよつと宗教的な人間にでもなつていいと思ひます。それまではどうか寛大に待つて下さい。僕の本も誰よりも先にあなたに読んでもらひ理解してほしいと思ひます。ユービン局の二階は、ホコリツポクはないかしら（道路に近いから）。それに本がおけますか。僕に必要な条件は、本がおけること、小さい畑がつくれること、地理的にさう不便でないこと、多少ゆつくり出来ること、これくらいで、あとはあなた次第です。あなたには今月から三十円ぐらいづつ、食費か小づかい^⑪かのつもりで送りますが、部屋をかりら

ればもう十円ぐらいよけい送りませう。月給でもあがれば、五十円ぐらい送りたいが。饒舌に書きました。あなたの先便に僕への恨みが含まれてゐたので、長々と自己弁護し、あやまつたわけです。どうか御諒承下さい。昨日島村君が来たのでドンブリとカヤとを渡しました。大変喜んで、あなたにどうかよろしくと云つてゐました。ドンブリの九円はあづかつてゐます。

幸子から謙一あて（一九四四年六月一三日の記）

六月十三日夕方

昨日小包有り難う。人名辞典は多いに必要を感じて居ましたが、そちらでもおいらよふの事と思つてゐたところでした。丸パンは残念乍ら青かびが生え、悪臭を放つてゐました。もう暑くなつたから郵送はむりでした。食量の少ないところから、へずつたもので、大変に貴重品なのに、おいしいことを致しました。

それから物理療養器は如何にして使ふのかわかりません。説明書がありませんでした。此のごろは例の脊骨の痛みはずっかり忘れてゐました。

煙草は十八日まで買へないので、お父さんはとても困つてゐましたから、ちようどよかつたです。私はきざみにも慣れましたので、それ程困りません。

九日の夜に臨時休暇で、森男が弘前から帰つて来ました。色の白い兵隊で、細いこと、利ちゃんなどより、ずっと細いので驚きました。腰のまはりには私と同じ位です。

それでもすばらしく元気でユーモラスで、大分、前より変りました。森男の「軍隊の話」は中々面白くて、それ位なら兵隊もわるくないと思ひました。共同生活は矢張りいいところがうんとあるのですね。それに弘前は、他とは、大分異つてゐるせいもあるのです。仲まも、美校出や帝大出が多くて、あまり妙なひねくれ者はゐないようでした。

ちようど兄夫妻や子供達も大町を引き上げて泊りこみ、隣家の下平ちいさんは亡くなつて、葬式当日まで家の客間を控室に提供、お勝手にも組合関係の炊事の人たちが十五人も来てゐる。家への訪問客もどうしたのか嫌に多くて、二階も下も人間だらけ、テナヤワンの騒ぎのうちに、今朝四晩泊つて出発致しました。

郵便局の二階はまだあたつて見ませんが、交通の点はバスのとまる地点であること、こしらへの点は此の辺には珍らし

くがつちり作りであること、埃の点は此の家と同じ程度であること、です。あんなきれいで、き持の良い郵便局は、日本中探してもあまりないでせう。事務をとつてゐるところのとなりは、とてもきれいな応接ま風な部屋です。私の目をつけたのは、其の上に当るところです。東と南に大き目の窓があつて風通しよきさうで、こんな風に四ま位あり相です。中に廊下かなんかあるのでせう（略図省略―編者注）。

今はまたすばらしく美しい夕暮です。ふうちゃんはまだ帰つて来ません。朝六時半から夕方六時七時ころまでです。帰つて来ると、早苗が一日中の不まんをぶちまける様に何か口実を作つてはキャア〜と泣き出すので、全く気の毒です。

今日は北西への道を少々読みました。以前読んだ時と大感^②じが違つてゐます。矢張り、読む時の心構へと云ふか、求めかたと云ふ物の相違でせう。まだ極く始めの部分ですが、殖民地軍と英本国から派遣された士官達との差が感じられます。これも四月にすこしアメリカ史をやつたので、本国とアメリカ植民地との対立的關係を知つたせいでもあるでせう。今、とに角、これを一応読み返してから、アメリカ史へ戻らうと思つてゐます。アキラの戦と云ふのは何戦争を扱つたものだったでせうか。独立戦争だったかしら。歴史を作る人々も独立戦争でしたね。

時間割には英国史を組み入れましたが、此の頃、どうも、それ程、早急に必要でないように思へるし、少い時間の勉強の、力の分散になる様に考へられるので、英国史は当分割愛しようと思つてゐます。必要に応じて、すこしづつ読んでゆかうと思ひます。

全く今はすばらしい黄昏、一人で味はふのはもつたない位です。まるで空気が透明すぎて硝子に近い物を感じさせ、麦の黄いろい段々畑や青い木々、白壁の家、畑をゆく農夫など、ゴッホの青い手押車のある風景とか云ふ絵のようです。大豆は着いたのでせうね。近いうち、粉を封筒一ぱい、大豆を同量、と云ふ風にすこしづつ集めたものを送るつもりです。

謙一から幸子あて（一九四四年六月一五〜一六日の記）※

五月二十七日

地下鉄を出て青山の通りを歩き出したら、今度もやつぱり甚だまぎららしい頼りないサイレンがなり出し、その長すぎる継続がどうやらサイレンだなど云ふ感じをはつきりさせはじめころ、漸く街に警報の反応らしいものがざわめい

て来ました。家々からモンペ姿がちよつと不安なやうな何かを求めるやうな表情で出て来てお互ひに寄り合ひ、鉄カブトを背へかけながらまだ整はぬ姿の警防団がやはりあいまいな感じを街の空気で確かめたがつてゐるやうにキョト／＼して出て来たり、子供が「敵機が来たよ」「いや来たんぢやないよ、来さうなんだよ」と云ひ合つたり。それらのだん／＼はつきりして行く街の気配に駆り立てられるやうに、今日の経堂みやげの大根三本とねぎ一かかえの可なりかさばつたふろしきづつみを膝にかちあてかちあて、足をはやめて帰つて来ました。利ちゃん(5)は十三日から徴兵検査で和歌山へ帰つて居り、ひろちゃん(6)は十四日から一週間富士のすその野外演習、プシはあれ以来もう二週間余り行方不明と云ふわけで、家は僕一人。先づ暗幕を張り、明日の米を洗ひ、ほつつけの塩づけを水出しして煮つけ、丸パン二つと、そのほつつけと昨日経堂で買つて帰つた大根のおろしとで、食事をすまず。(今日の野菜みやげはいねちゃん達にあげるつもりのもの。)食事をすまずとワカマツと云ふ昨日からのみかけた薬のみ、やはり昨日から敷つばなしのふとんの上にはらばつて、「白痴」の第二巻を読み始めました。

十二日頃から便秘になり、十三日、十四日から、下痢のやうな感じで始終便所へ行きたいくせにちつとも出ないやな状態になつて、どうやら熱も出はじめたらしく悪感(悪)を生じ、十四日の夜は便所へ無駄に通ひづめで殆ど睡ることも出来ず、人にすすめられてワカ末をのんでからやつと通じがあるやうになつたが、便所通ひは一日十数回を下らず、十五日は休みたかつたのですが、ポーナスを貰ふ必要から途中便所へ行きたくなる危険を冒して出勤し、その夕方帰りに警報になつたわけでした。

ポーナスがほしかつたわけは、この半年来本郷の或る本屋の店の奥にみつけておいた Lecky の History of England in 18th Century (全八巻 金九十円) がどうしてもほしく、一刻も早く確保したかつたからです。で十六日にはワカ末の効果が十分あらはれて、午前中僅か五回しか便所へ通はなくてすむ程度になつたし、ラヂオで警戒警報の理由もはっきりしたし、とにかく Lecky を買ひに、防空姿に身をかため八冊持ち帰るに不便のないやう、ひろちゃんのズックカバンの中にふろしき二つおしこんでおひるすぎに家を出ました。途中床屋で三月末鼎の永代橋際で刈つて以来の頭を刈りましたが、顔剃りになつた時相当大きな地震で鏡張りの床屋の店がヒシガタにいがむほどゆれて、煙草臭い息で僕を悩ましてゐた床屋のおかみさんは、カミソリをもつたまゝ店からとび出し、「おにげになりませんか」と叫んだほどで、僕も椅子の上で思はずへつぴり腰になつたが、前のかがみにシヤボンだらけと云ひたいが実はそのシヤボンがうすくて既にかはいた痕(5)しかない顔と自分のへつぴりごしとが醜態にうつつて、ちよつと我乍ら滑稽になると共にどうやらゆれ

もおさまるらしいので、とび出さないで終つたのですが、上からと下からの脅威に「これはいよ／＼東京にも居られないな」とつく／＼感じました。それから本郷へかけたのですが、一ヶ月前にはつきりたしかめてあつたその場所に既に Lecky はなく、思ひきりガツカリし、やつぱりあの時借金してでも買つておけばよかつたと云ふ、ここ何年来幾度となく繰返して来た後悔の感にすつかり憂鬱になり乍ら、惰性的に十軒ばかり本屋を覗いて、大分腹の様子があやしくなつた午後四時頃、漸く帰つた次第でした。幸ひ家へ帰りつくまで、お腹ももつて、どうやら腹痛も峠をこしたことをたしかめました。

今日は経堂へ朝から出て来てゐます。今朝は三回便所へ行きました。一回毎にさう沢山出ないし、食欲は大しておとろへずに目下パンと大根おろしばかり食べてゐるのですが、それにしてもここ数日ずい分便所へ通つたものです。どうやら寐冷えぢやないかと思ひます。ここずつと外で食べないので、とにかく便所へ行つても排泄物の実体が出るやうになつてからは大分楽になつたわけで、その前二、三日、出たくてもちつとも出なかつた頃は全く弱りました。ガスさへ出なかつたのです。

来週火曜日日本橋へ出て、ハシ箱や香水を買つて来ます。今日はまだ腹に力がなく、おまけにまだ時々腹の中で圧縮が起つて便所を余りはなれられないので。パンが腐つてゐたとは残念でした。セナカ押へのキカイは、ここ(略図省略―編者注)の所へ背骨をはめて、仰臥すると丁度指圧療法になるのです。頭がつかれた時は首の後上部にあてて□にするのです。説明書は入れておいたはずですが。でも背中が痛まなくなつたのなら何よりです。

お送り下さつたオリザニン豆は、ごはんへ入れておいしくいただいてゐます。どうも有難う。ユービン局の二階、大分よささうですね。若しよかつたら、借りておいて下さい。僕も秋頃にはどうしても行きたいと思ひますし、本も送つておきたいから。

僕も、やつとプランテーション年表を書き終り、半年越しの仕事をどうやら一まづ脱却した形です。もう初校が出て来ます。次の原稿にも急いでかからねばなりません、当分一人の生活で勉強出来ると思つたら、今度の腹痛と警報でオジャンになりました。そのかはり、ドストエフスキーの「白痴」とトルストイの「アンナ・カレニナ」とを読みくらべる機会を得て、この二人の比較について大分わかつて来た気がします。では又。皆様によろしく。

森ちゃんか帰省出来たのはよかつたですね。あなたへ返すお金はもう暫く御待ち下さい。今度のポーナスは僕の欠勤遅刻が多かつたのと、税金が一割五分になつた

のと、竹中君へ四〇円、伊藤君へ二〇円返すのとで甚だ残り僅少です。

※冒頭に「五月二十七日」とあるが、これはのちに謙一がみずから手紙を整理するさいに、誤って書き加えたものであろう。内容からみて、

幸子が一九四四年六月一三日に認めた手紙への返書に相違なく、謙一が六月一日から一六日にかけて書いたものと推定できる。

なお謙一発の手紙の冒頭に記された日付けのうち、謙一がのちに書き加えたものであることが明らかなのは、この「五月二十七日」を除いて記載を省略した。

幸子から謙一あて（一九四四年六月一八日の消印）※

東京は今梅雨の頃でせう。こちらもちヨイ／＼雨が降ります。昨日は診察室の脇の青梅をさまで叩き落してバケツ一杯とりました。

お父さんは昨日から浪合村に遊びにゆき、よう／＼、今日の午後に帰りました。あららぎ峠と云ふところへ行つたので相で、海抜二一五〇とか、すばらしくいいところだ相で、其処から帰つて来ると、此の辺はもう俗つぼくてかなわんと仙人みたいな事を云ひ、あゝ云ふところにゐると実に身体が丈夫になると云つて、お母さんから、あんな何処から行つたんな！ 東京からでも行つたのかな！”とからかはれてゐました。

菊池君が遊びに来るならもう一度ゆかう、なんて云つてますから、あなたも近々来ませんか。食べ物にはそれ程不自由しないから五、六日来て腹一杯食べてゆくといいと思ひます。

今、万年筆を二本買って来ました。今使つてゐるのはシーマーとか云ふので、五・四二銭也、これもシーマーで五・七一銭也、どっちか一本あげませうか。まあ／＼一本は後日のためにとつておいてもいいですね。其中、イリヂュームもろ／＼ついてゐるのが出来るにきまつてるから。

大金さんたちから手紙が来て、二人とも書記補になつて、ボーナスも沢山貰つて、あまりうれしいのでエノケンを見に行つたと書いてありました。

九州へとう／＼ボーイングが来たんですね。ここへ来たなら現金なもので、空襲の夢はぼつたり見なくなりました。それでもサイレンが鳴り始めると、すぐ東京空襲かと思つて心配になります。新飯田橋（知つてゐるでせう）のそばにお